

第6学年1組 体育科 学習構想案

日 時 令和7年1月24日(金) 4校時
場 所 体育館
指導者 教諭 池田 幸希

1 单元构想

単元名	器械運動「跳び箱運動」
単元の目標	(1) 切り返し系や回転系の技を安定して行ったり、その発展技を行ったりできるようにする。〔知識及び技能〕 (2) 能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己の考えを他者に伝えることができるようにする。また、練習を通して学習計画を自分で調整していくことができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕 (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。〔遊びに向かう力、人間性等〕
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
自分に合った技に挑戦し、友達と技を高め合い、班のみんなと協力して跳び箱運動に取り組む姿	
本単元で働かせる見方・考え方	
器械運動を通して、その運動の価値や特性に着目し、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。	
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	
「み」りよく的な技で 「な」かまと力を合わせた 「み」んな笑顔の 「みなみ」の跳び箱発表会をしよう！	
本単元で特に育成を目指す学び方のスキル	
★1「コミュニケーション」	★2「学習の見通し」
必要に応じてアウトプットを行う相手を選択し、自分の考えと友達の考えを参照しながら課題解決に向かっている。	課題や既習事項をもとに自分達で単元計画を立て、進度や課題に応じて学習計画を調整しようとしている。

2 児童の学びの実態と教師の手立て

【学び方のスキル】

「コミュニケーション」のスキルに関して、体育の授業で友達にアドバイスをしたり助言を求めたりする姿は見られる。ただ、アドバイスのポイントが曖昧であったり、一方的に考えの出し合いに終始するなど、考えを広げたり深めたりするための協働的な活動を行うことが難しい児童が多い。アドバイスの視点を明確にしたり、相手の考えを深掘りしたりするなどして、児童の説明する力を養い、自ら考えを広げ、深められるようにしたい。そのために、跳び箱を練習する上で、意識する体の部位に「ポイントリング」をつけることで、友達から効果的な助言をもらえるようにする。

「学習の見直し」では、班や個人で学習計画を考えることはできるが、現状や課題を鑑みて、学習計画を調整し直すことができる児童は少ない。8時間の学習計画を自分達で考え、計画を調整しながら学習を進めていくことができるような手立てを行う。例えば、既習事項であるミニバレーボールなどの学習から、学習計画の立て方を想起し、単元のゴールから逆算して単元計画を作っていくようにする。そのために既習事項を想起しやすい工夫として、フィグジャムで体育の全単元の授業を一元管理したり、単元計画作成のヒントとなる掲示物を設置したりする。また、練習を通して自分の技の課題をチームで共有し、学習計画を見直し、調整できるようにする。

「飛び箱についての児童の思いとして「1人で演技するのは緊張する」「誰かと一緒に発表したい」「リズムに乗りながら楽しく飛び箱をしたい」などの意見が出た。それらの意見を踏まえ、児童と話し合う中で「み」りよく的な技で「な」かまと力を合わせた「み」んな笑顔の「みなみ」の飛び箱発表会をしよう!という児童の願いに即した単元のゴールを設定することで、児童の主体性を伸ばしたい。「みなみ」の発表会で、4人一組のチームで飛び箱の集団演技を行うというものである。1人2種類の技を選び、リズムに合わせて技の種類やタイミングを選択し、チームとしての演技を行うことで、チームの話し合いや教え合いが自然に生まれるような手立てを行う。

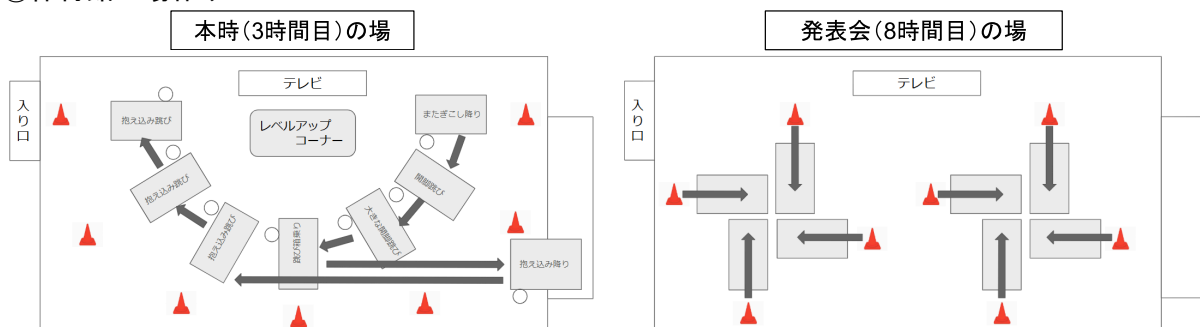
【見方・考え方】

体育の見方・考え方に関する学級の実態としては、あまりこれまで意識できていないのが現状である。

そこで、全ての児童が体育に多角的に関わることができるよう、様々な視点から運動に取り組めるように、体育の見方・考え方である「する」「みる」「ささえる」「しる」に着目させるようにする。例えば、意識的に児童が見方・考え方を働かせるために、授業の導入や振り返り等でこれらを自己選択できるような場面を設定する。導入では、本時の課題を解決するためにどの見方・考え方を活用するかを考えさせる。また、展開では友達をサポートしたり、教え合ったりする児童に対して「みる心を使っているね!」や「ささえる心を働かせているね!」などと声かけをすることで、どの見方・考え方を働かせているかを価値付けし、自覚させる。振り返りでは導入で選択した見方・考え方をどのように働かせたのかを記述させる。このように、導入、展開、振り返りで、児童が意識的に「する」「みる」「ささえる」「しる」の見方・考え方から選択し、活用することで、体育の授業でより深い学びができるようにする。

3 学びの工夫

①体育館の場作り



②学びの地図（フィグジャム）



③児童が作成する学習計画例（1時間目終了時）

	1	2	3	4	5	6	7	8
内容	オリエンテーション	切り返し系の技	切り返し系の技	回転系の技	回転系の技	切り返し系の技と回転系の技から選んで	発表の構成を考える	「みなみ」の発表会
技	抱え込み飛びチャレンジ	抱え込み飛び	抱え込み飛び	台上前転チャレンジ	台上前転	抱え込み飛び or 首はねトビ	抱え込み飛び → 台上前転	
練習方法・ポイントなど	前回の学習では、抱え込み飛びで飛び越えに勝ってしまっただけの練習方法のポイントを→活かす	練習方法 ゴムを伸ばしてそれを足で曲げて飛び越えるポイント？ 助走を力強くする →活かす 道具 ゴム	実践 上手くいかなかったら2回目の練習方法 繰り返す できたら観てもらおう →アドバイス もらおう 道具 ゴム	見る心意識 班の人観察 知る心 →ポイント 探す できたら練習方法 考える 練習方法 道具	練習方法 実践 できなかったら地面で練習 できたら段をあげる 観てもらおう →アドバイス もらおう 道具	練習方法 抱え込み飛び → 2回目 台上前転から活かす できたら段をあげる		

④家庭学習との連携（家庭で感覚作りの運動）

種目	ゆりかご 10回	カエルの足うち 10回	V字バランス 10秒	だるま転がり 3周
説明	【ゆりかご】（回転感覚） 	手と手の間を離しながら、足で助走をする。何回か試してみよう。 		3回転がって、元の位置に戻るかな？
ポイント	・ボールを真横する ・目をまどめる	・お尻を高く上げる ・2回足を打てる人は2回打つ	・腰筋に力を入れて	・体全体で転がるイメージ
1	3回目	3回目	6回目	1回目
2	江崎 大河 2回目	1回目	2回目	2回目

4 単元計画

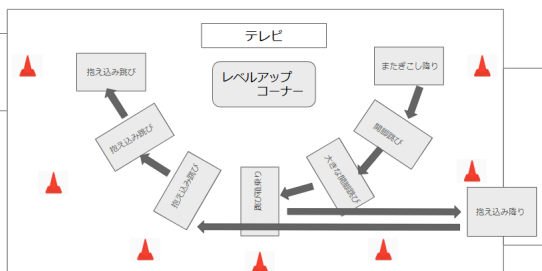
	1	2	3 本時	4	5	6	7	8
導入	◇準備運動 運動特性に合ったストレッチ ◇課題の設定 ◇ゴールの確認	◇準備運動 →運動特性に合ったストレッチを班で選択する ◇感覚作りの運動（レベルアップタイム） →進化ゲーム、壁おし ◇学習計画の見直し						
展開	◇レベルアップタイムの説明 ◇オリエンテーション ・安全チェックリストの作成 ・技の系統性 ・場の設定 ・体育の心 ・切り返し系と回転系の違いを説明 ◇試しの練習 自分の課題を知る ◇学習計画作り	◇課題の確認 『切り返し系の技のレベルアップを目指そう』 ◇見方考え方の選択 ◇学習計画を調整 ・発表会でどんな技をしたいか ・どの技を練習するか ◇学習計画を元に練習 【切り返し系】 ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・抱え込み跳び（発展技） ◇学習計画を見直す	◇課題の確認 『回転系の技のレベルアップを目指そう』 ◇見方考え方の選択 ◇課題に応じて練習 【回転系】 ・台上前転 ・首はね跳び ・伸膝台上前転（発展技） ・頭はね跳び（発展技） ◇チームで演技の構成を考える ◇学習計画を見直す	◇課題の確認 『伸ばしたい技や克服したい技に挑戦しよう』 ◇切り返し系と回転系から伸ばしたい技や克服したい技を選択して練習する ◇学習計画を見直す ◇班で発表会の計画を立てる ◇切り返し系と回転系から、伸ばしたい技や克服したい技を選択して練習する	◇課題の確認 『みなみの発表会に向けて構成を考え・練習しよう』 ◇見方考え方の選択 ◇チームで演技の構成を考える ◇仮の発表会をする ◇アドバイスをもとに改善する	◇課題の確認 『みなみの発表会をしよう』 ◇見方考え方の選択 ◇最終確認 ◇発表会 ※4人1チームで集団跳び箱演技を行う。 ◇感想交流		
まとめ	◇振り返り ①学習内容 ②学び方 ③今日のヒーロー の3つの視点で書く ◇見方・考え方の振り返り							
知技						PC・観察		PC・観察
思		PC・観察		PC・観察			PC・観察	
態	PC・観察							PC・観察

5 本時の学習

(1) 本時の目標と学び方のスキルの具体

本時の目標	魅力的な切り返し系の技にするための方法を話し合ったり、学習計画を見直したりすることができる。
本時における児童の学び方のスキルの具体	
★1「コミュニケーション」	★2「学習の見通し」
・自分から分からないところを尋ねたり、自分の考えと友達の考えや動きを比較したり（他者参照）しながら課題解決に向かっている。	・既習事項や課題をもとに立てた単元計画を、自分の実態に応じて調整しようとしている。
本時において働かせる児童の見方・考え方の具体	
自分の課題に応じた練習をくり返し「する」、自分やお手本の動きを比較して「みる」、チームの仲間や同じ課題をもつ友達を「ささえる」、技のポイントを「しる」という視点で跳び箱運動に取り組む姿。	

(2) 本時の展開

過程	時間	児童の学習活動例 (◇予想される児童の発言や考え・発問 指示 説明 ◎主発問 ○深める発問 ★児童の学び方のスキル)	指導上の留意事項 (★スキル発揮に繋がる教師の支援、 ○教科の特質に応じた支援、□その他の支援)
導入	8分	1 前時を振り返る。 ・跳び箱運動でどんな力を伸ばしたいですか？ 2 準備運動、班で決めたストレッチをする。 3 レベルアップタイム（感覚作りの運動）を行う。 ・進化ゲーム、壁押しなど 4 単元のめあてを確認する。 【全体のめあて】 「み」りよく的な技で「な」かまと力を合わせた 「み」んな笑顔の「みなみ」の跳び箱発表会をしよう！ 5 本時のめあてを設定する。 学習計画を見直ししながら、技のレベルアップを目指そう ・今日はどの見方・考え方を使いますか？	○安全に活動できるようフィグジャムの場合作りのポイントを参照しながら、安全な場のチェックを行う。 ・自分の技能的な課題や身体の状態、技の運動特性を踏まえて、数種類の感覚作りの運動の中から適した運動を選択できるようにする。 ○レベルアップタイムでは、体を支えるための手の付き方を教えたり、レベルアップタイムの目的を確認したりすることで、本時の学びにつなげる意識を持たせる。 ○「みなみ」の跳び箱発表会の姿を言語化する （例）魅力的な技 → ピタっと着地、ピンと伸ばす 仲間と力を合わせる → 練習でも教え合う みんな笑顔 → 達成感を味わえる ○本時の課題とゴールの姿がどうつながっているのかを理解させる。 ○体育の見方・考え方を意識させる。 →「する・みる・支える・知る」から選ぶ。
展開	29分	6 学習計画をもとに切り返し技の練習をする。 ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・抱え込み跳び（発展技） ・屈伸跳び  7 学習計画を見直す。 ・班や個人で学習計画を立て直してください。 ・班の発表でどんな技をしたいかも踏まえて学習計画を考えてください。 ◇開脚跳びができたので、次は発展技に挑戦してみよう。 ◇「みなみ」の発表会では、抱え込み跳びできるかも。	○学習計画作成に悩んでいる児童には、技の系統性の表を提示し、課題解決のために必要な運動を考えることが出来るようにする。 ★前時に行った、技の課題を明確にするためのチェックリストを参照し、学習計画を調整するように伝える。 ★2「学習の見通し」 ★1「コミュニケーション」 ・児童は自分の考えをフィグジャムに記述し、自分のタイミングで他者の考えを参照して もよいことを伝える。 ○お手本動画はQRコードや、クラウド上からすぐに見ることが出来るようにしておく。 ○ほうきを使って切り返し系と回転系の違いを説明する。 ○遅延撮影ができる場と、自分のタブレットで撮影する場とを分けて場作りを行うことで、運動量の確保を行う。 【具体的評価規準】思（PC・観察） ○魅力的な切り返し系の技にするための方法を話し合ったり、自分やチームの実態、課題に合わせて学習計画を見直したりしている。
終末	8分	8 本時の振り返りを行う。【まとめ・表現】 ①学習内容（分かったこと、友達の意見） ②学び方（どんな学び方がよかったかなど） ③今日のヒーロー の3つの視点で書く ・「する・みる・支える・知る」のどの見方考え方を中心に意識して取り組みましたか？	○この時間でどんな力が身についたのか、どう変わったのかを実感できるように振り返る。

